

2月から3月は花粉症のシーズン。花粉症の症状は風邪とまぎらわしいですし、子どもは症状をうまく言えません。気になるときは、小児科や耳鼻咽喉科で相談しましょう。

こんなサインに注意

花粉症の三大症状

くしゃみが
出る

鼻水・
鼻づまりが
続く

目を
こする

大人の病気と思われがちですが、5～9歳では13.7%、10～19歳では31.4%もの子どもが花粉症だというデータがあります。

花粉症の症状があっても熱がないなら大丈夫、と油断しがちですが、花粉症の症状がずっと続くと不快なだけでなく、さまざまな問題を招くおそれがあります。

●口をいつも開けている

しつこい鼻づまりのために、口呼吸になります。乾いた空気が口からのどに入るため、風邪などをひきやすくなるおそれがあります。

●なかなか寝ない

●日中元気がない、きげんが悪い

息苦しさのためによく眠れなくなります。そのため、昼間に元気に遊べなかったり、きげんが悪くなったりします。小学生になると、授業に集中できないなどの問題が起こってくることも。



花粉と接する機会を減らそう

花粉症対策は、花粉に触れないようにすること。花粉に接する機会が多いほど、花粉症になる可能性が高くなります。花粉が増えるシーズンは、治療と予防をかねて、身の回りの花粉との接触を減らしましょう。

花粉を家に持ち込まないために

外干ししない

花粉が多く飛ぶシーズンは、洗濯物を外に干すのを控えましょう。

玄関で脱ぐ

外から帰ったら、コート類は玄関で脱いでつるすなど、室内に花粉を持ち込まないようにしましょう。

服からも取り除く

衣類をはたくと、花粉が舞い散って逆効果です。粘着テープなどで取り除く、花粉がつきにくいツルツルの素材の上着を選ぶなどがおすすめです。



冬に起こりやすい皮膚トラブル ～なめまわし皮膚炎を防ごう～

なめまわし皮膚炎とは、唇や口のまわりをくり返しなめることで起こる皮膚炎です。

最初は乾燥や軽いかゆみで唇をなめるだけなのですが、なめる→乾く→またなめる、という悪循環をくり返すうちに、どんどん赤くただれていきます。

こんな症状 あいませんか？

唇のまわりが赤い

ヒリヒリする
かゆみがある

皮がむけてカサカサ

口の周りをなめるたびに、ザラザラした舌先の刺激が皮膚を傷つけ、よけいに皮膚が荒れて乾燥し、なかなか治りません



ついつい
なめちゃう

子どもによくみられるのはなぜ？

●冬の乾燥により、カサカサしてなめたくなる

●なめるのを我慢するのが苦手

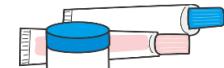
●風邪や鼻づまりにより口呼吸になり、乾燥がすすんでなめたくなる



ご家庭でできるケア

●とにかく保湿！保湿剤をこまめに塗りましょう

●塗ってもすぐに子どもがなめてしまう場合には、子どもが寝たあとや朝、起こす前に塗ってあげましょう



こんなときは皮膚科を受診しましょう

●ジクジクしているときは皮膚科でステロイド軟こうをもらいましょう

●しっかり保湿しているのに治りが悪いときにも受診しましょう

食べものや歯磨き粉が原因の接触皮膚炎や、カンジダ症の可能性もあります